

日本市場

デジタルアセットの 投資動向に関する 機関投資家調査 2026

2026年4月

1 : イントロダクション

2 : 暗号資産に対する投資動向・意向

3 : 暗号資産の投資加速のドライバー

a. 暗号資産投資の障壁

b. 暗号資産投資のニーズ

4 : その他デジタルアセット領域のニーズ

5 : 総括

Contents.

1 : イントロダクション

2 : 暗号資産に対する投資動向・意向

3 : 暗号資産の投資加速のドライバー

a. 暗号資産投資の障壁

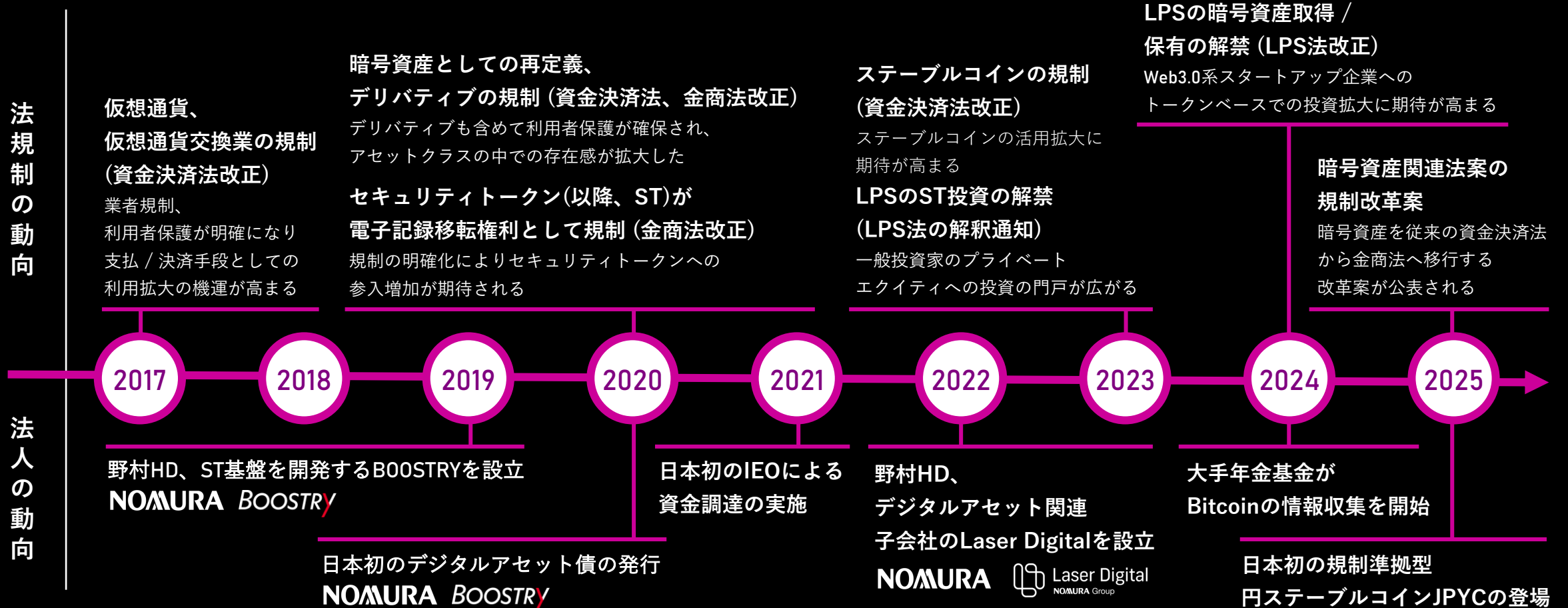
b. 暗号資産投資のニーズ

4 : その他デジタルアセット領域のニーズ

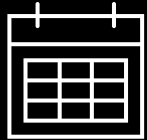
5 : 総括

Contents.

2025年は暗号資産の金融商品取引法への移行検討を含む、法規制や投資環境の整備が進展



デジタルアセットを取り巻く制度・市場環境の変化を踏まえ、 機関投資家による暗号資産に対する認識、投資動向および意向を 把握するためアンケートを実施



実施時期

2025年12月16日～
2026年1月29日



アンケート

国内の機関投資家または
ファミリーオフィス、公益法人¹に在籍する
運用担当者518名
野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング及び
外部リサーチ会社経由にてオンライン実施

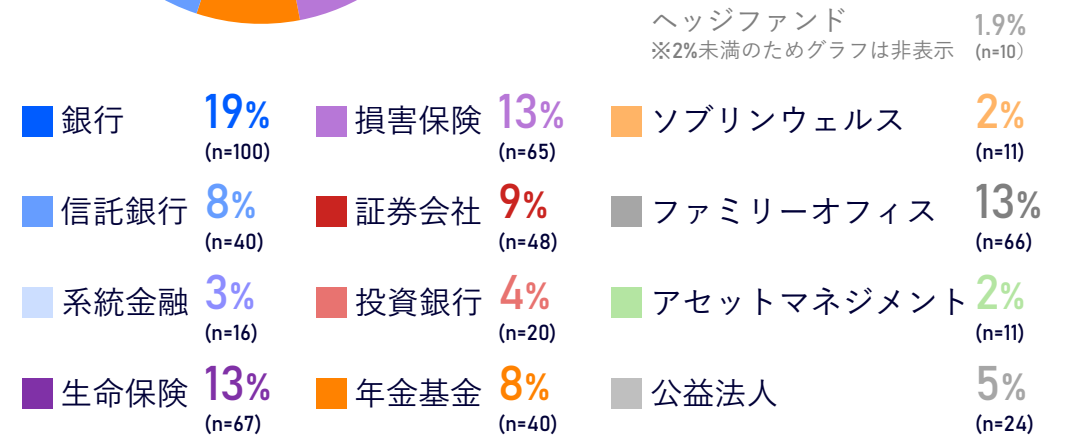
※調査の客観性担保のため、楽天インサイト株式会社が調査の実査・分析

※1以降、本資料上では機関投資家、ファミリーオフィス、公益法人を「機関投資家」と示す



調査対象の属性

運用資産総額10兆円以上を含む
機関投資家に加えて、
数億円～数千億円の資産規模を有し
投資家としての側面もある
ファミリーオフィスや
公益法人に対しても調査を実施した



1 : イントロダクション

2 : 暗号資産に対する投資動向・意向

3 : 暗号資産の投資加速のドライバー

a. 暗号資産投資の障壁

b. 暗号資産投資のニーズ

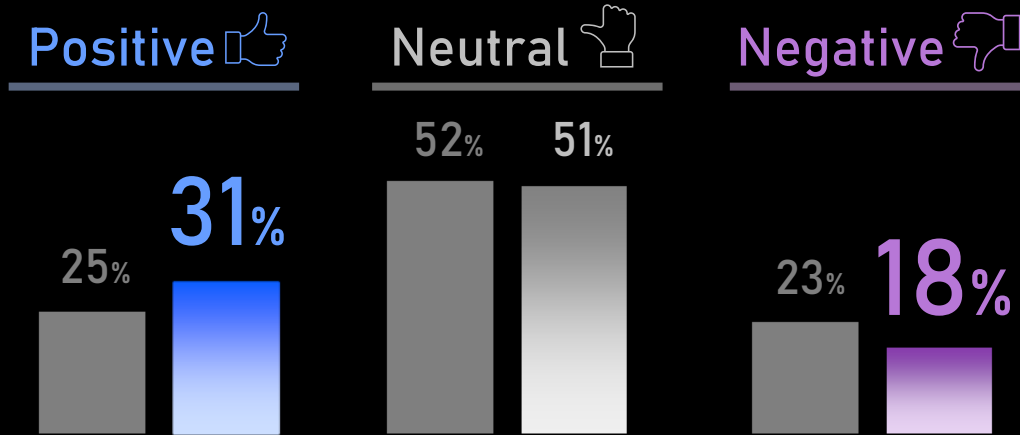
4 : その他デジタルアセット領域のニーズ

5 : 総括

Contents.

暗号資産に対して 「Positive」な印象を持つ回答者は31%

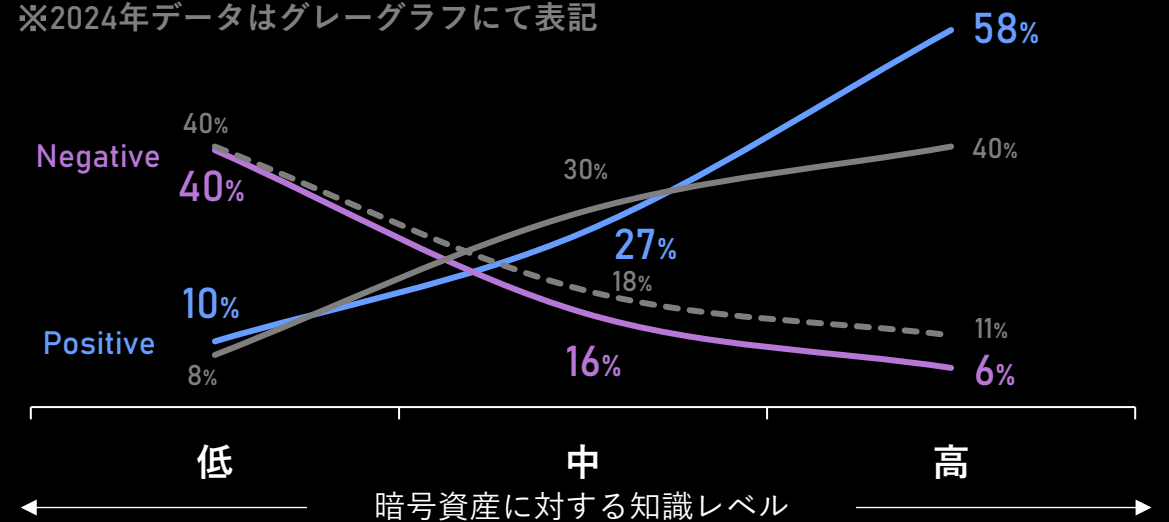
暗号資産に対する印象 (2024年/n=547・2026年/n=518)



回答者の31%が今後1年先を見通した際の暗号資産に対する印象を「Positive」と回答しており、前回調査の25%から6ポイント増加。一方で「Negative」と回答した割合は18%と、前回調査の23%から5ポイント減少。これらの結果から暗号資産への印象は好転している様子。

暗号資産の知識レベルと印象の相関 (2024年/n=547・2026年/n=518)

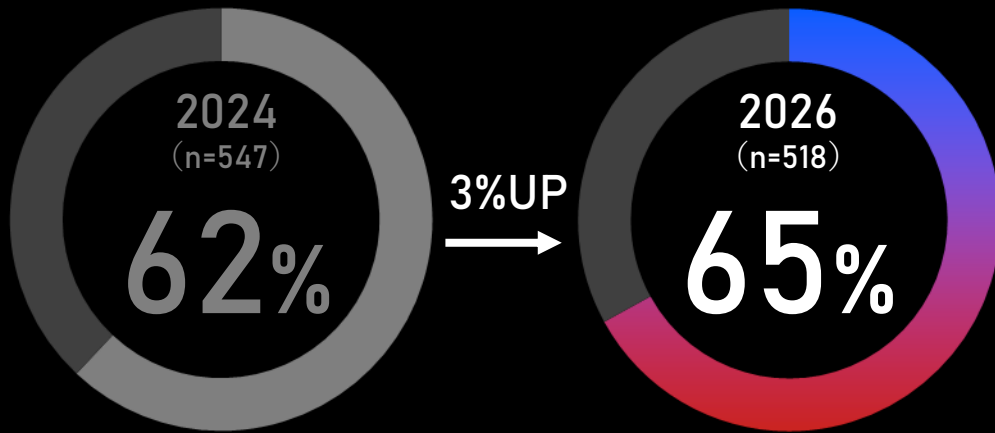
※2024年データはグレーグラフにて表記



「知識レベル・高」の58%が暗号資産に対して「Positive」な印象を抱いており、暗号資産に対する知識レベルの高さと「Positive」な印象には関連性が見られる。また、前回調査より知識レベル高の「Positive」割合そのものが増加している。このことから、暗号資産に関する知識レベルの向上は、暗号資産に対する印象の改善につながっている可能性が示唆される。

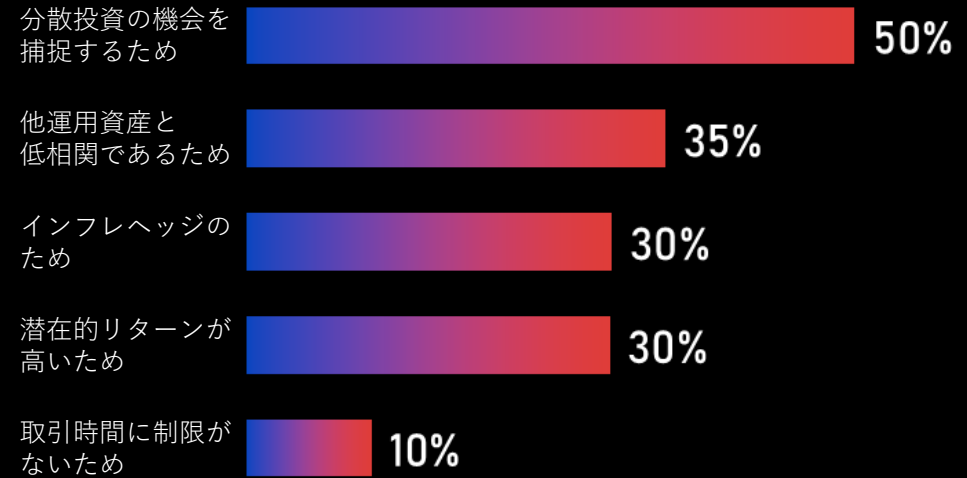
回答者の65%が暗号資産を分散投資の機会として捉えており、 今後暗号資産に投資する理由としても、 半数が分散投資の対象の一つとして認識している

暗号資産を分散投資の機会として捉えているか？



回答者の65%が、暗号資産を現金や株式、債券、コモディティと共に分散投資の機会として捉えている。前回調査と比べ、暗号資産を分散投資の機会として評価する割合が増加している。

今後3年間で暗号資産に投資をする理由 (複数選択・n=518)



今後暗号資産に投資をする理由として

「分散投資の機会を捕捉するため」が50%と、最も多い回答となった。次いで、他運用資産と低相関であることも投資理由として挙げられている。

最も好まれる配分比率は、前回調査と同様2～5%程度

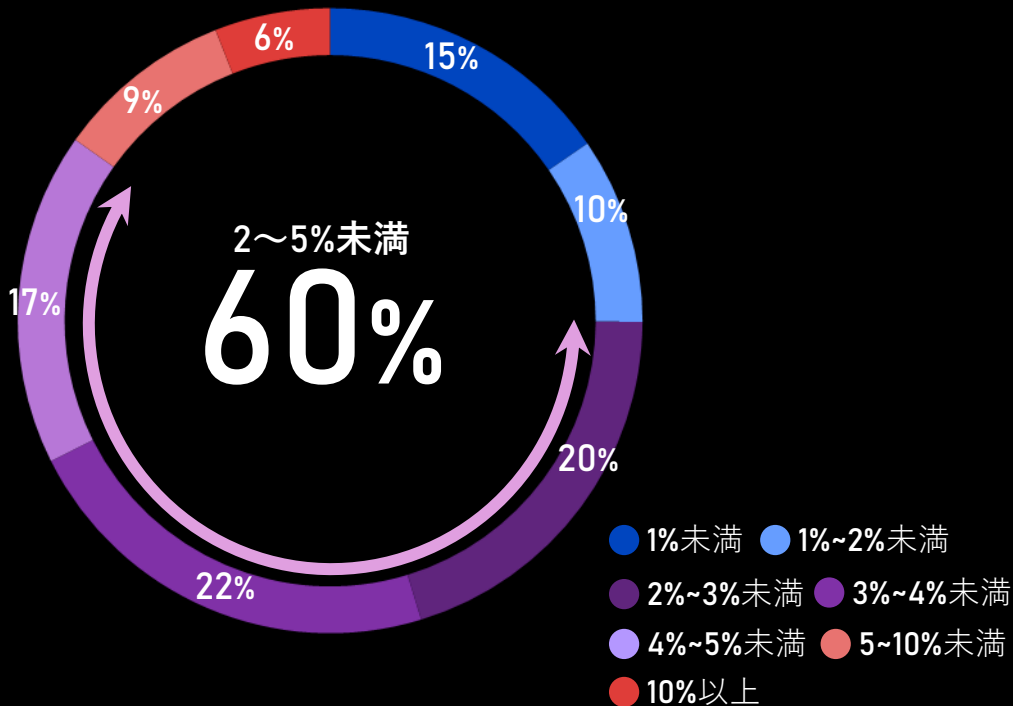
(注記1・2)

今後投資を予定している割合は79%

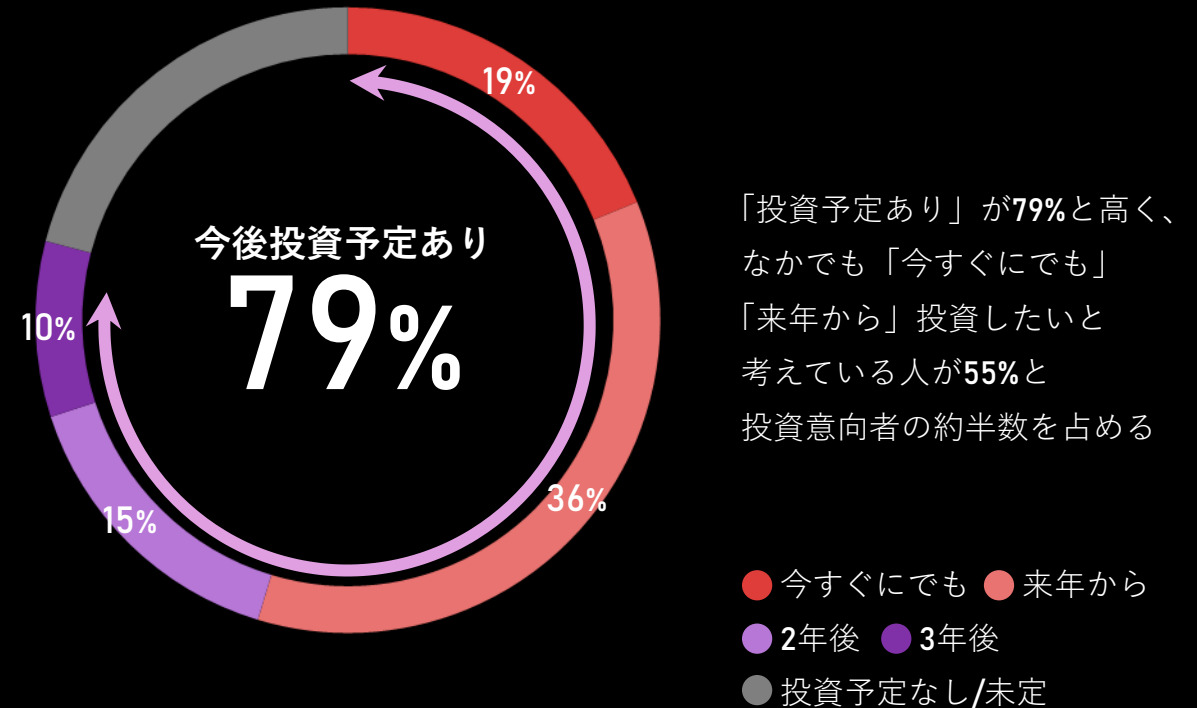
注記1) 前回調査では、「今後3年間に暗号資産へ投資する場合の配分比率は2～5%」
と回答した層が66%を占めていた

注記2) 前回調査では、「投資期間」について確認していた。
76%が1年以上の投資期間を想定していた

今後3年間で運用資産全体のなかで、
暗号資産に投資したいと考えている割合 (n=435)



暗号資産に投資したい時期 (n=430)



「投資予定あり」が79%と高く、
なかでも「今すぐにでも」
「来年から」投資したいと
考えている人が55%と
投資意向者の約半数を占める

1 : イントロダクション

2 : 暗号資産に対する投資動向・意向

3 : 暗号資産の投資加速のドライバー

a. 暗号資産投資の障壁

b. 暗号資産投資のニーズ

4 : その他デジタルアセット領域のニーズ

5 : 総括

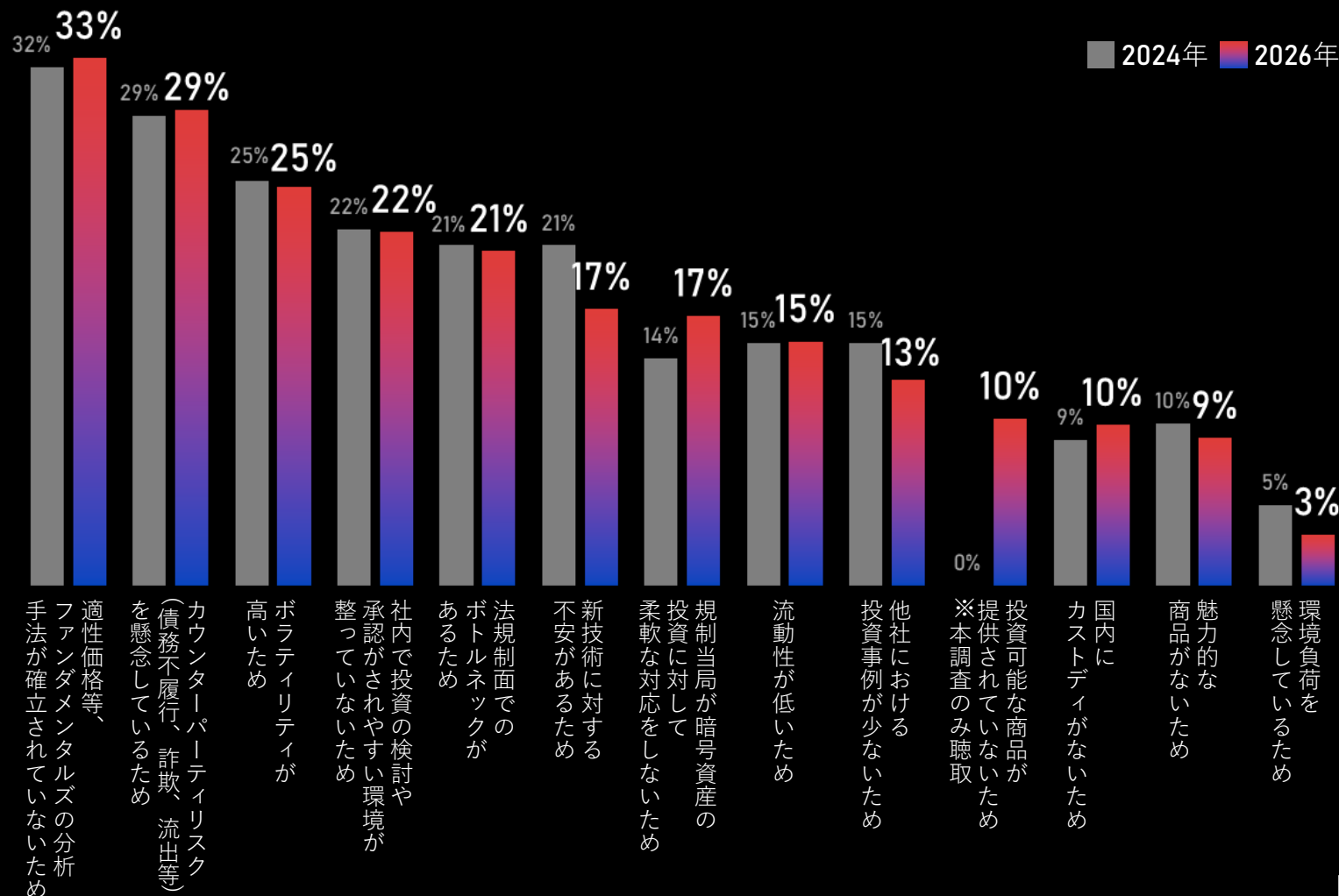
Contents.

分析手法の未確立、流出等のカウンターパーティリスクへの懸念が障壁となっている

現在、暗号資産に投資をしていない理由は何か？

(複数選択・2024年/n=312・2026年/n=252)

暗号資産に投資しない理由として、ファンダメンタルズの分析手法が未確立であること、カウンターパーティリスクやボラティリティへの懸念が主な要因として挙げられた。

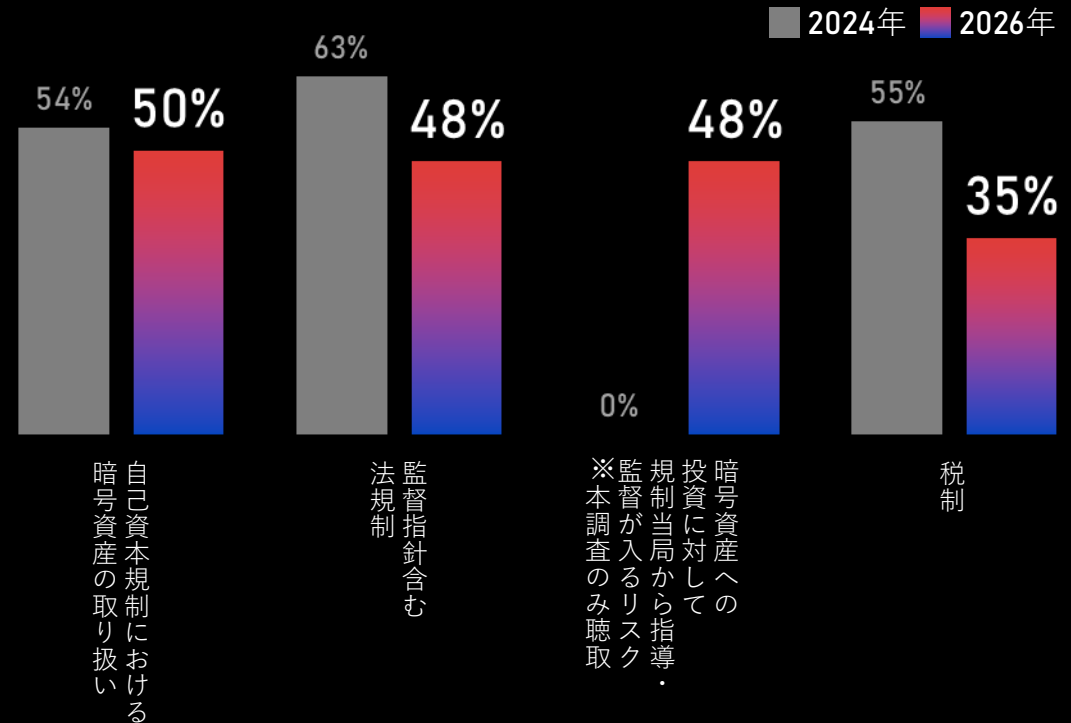


監督指針含む法規制、自己資本規制における 暗号資産の取り扱いや法規則、 規制当局からの指導・監督リスクが障壁となっている

「法規制面でのボトルネック」の具体的な内容は？

(複数選択・2024年/n=98・2026年/n=52)

法規制面の障壁としては、監督指針を含む法規制、自己資本規制における暗号資産の取扱い、さらに規制当局からの指導・監督リスクが、参入・拡大に向けた障壁となっている。
規制当局からの指導・監督や税制に関する不透明感も、投資判断に影響を与えている。

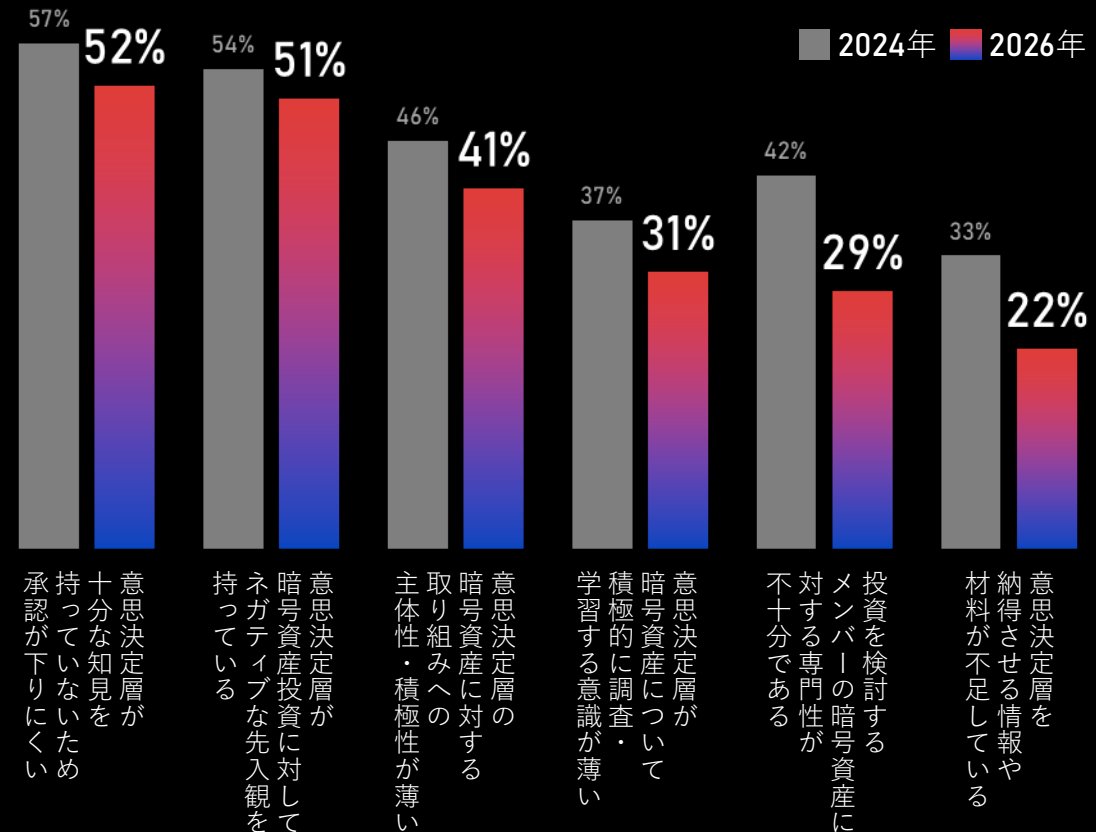


社内的な障壁として、 意思決定層の知見不足やネガティブな先入観が 大きな要因となっている

投資の障壁となっている社内的な要因は？

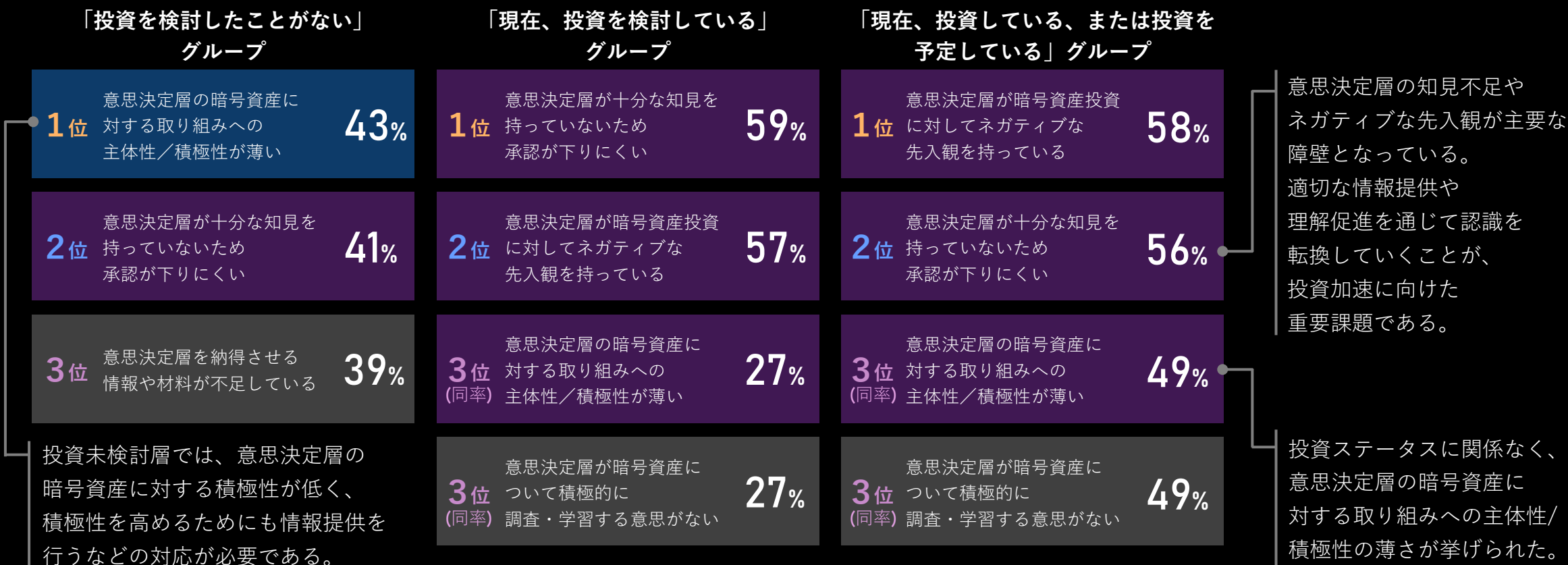
(複数選択・2024年/n=141・2026年/n=138)

前回調査同様、意思決定層の知見不足による承認の難しさや、暗号資産へのネガティブな先入観、取り組みへの主体性の不足が社内の主な障壁として挙げられた。これらはいずれも前回調査から3~5ポイント低下しており、社内環境は改善傾向にある。また、検討メンバーの専門性不足や、意思決定層を納得させるための情報・資料不足も前回調査より10ポイント以上低下しており、知識・情報面の整備が進みつつあることがうかがえる。



意思決定層に対する暗号資産の情報不足の解消と先入観の是正が、投資加速の鍵となる

投資の障壁となっている社内的な要因は？（複数選択・n=138）

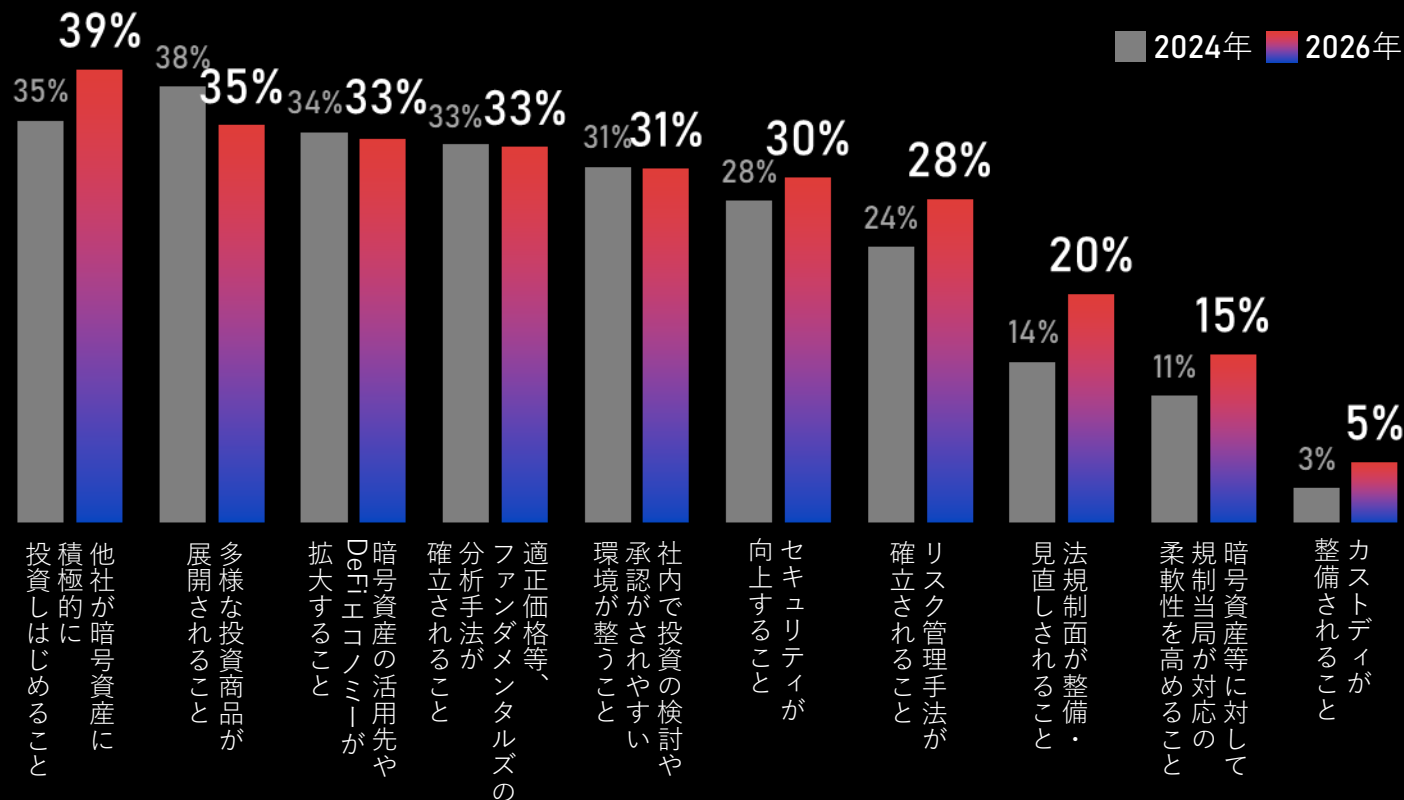


多様な投資商品展開に加え、 制度面の成熟と他社の参入拡大が、 暗号資産投資の検討を後押し

暗号資産の投資検討を 加速させるドライバーは何か？

(複数選択・2024年/n=235・2026年/n=266)

同業他社による積極的な投資開始や多様な投資商品の展開など、市場環境の整備は、暗号資産投資の検討を後押しする要素として認識されている。特に今回の調査では、リスク管理手法の確立や法規制の整備・見直しなど、制度面に関する項目の割合が上昇しており、投資検討にあたって重視される論点が、より具体的な実務課題へ移りつつあることがうかがえる。



上場投資信託に加え、 私募型を中心に ファンド投資への関心が引き続き高い

暗号資産に投資する場合どの様に投資したいか？

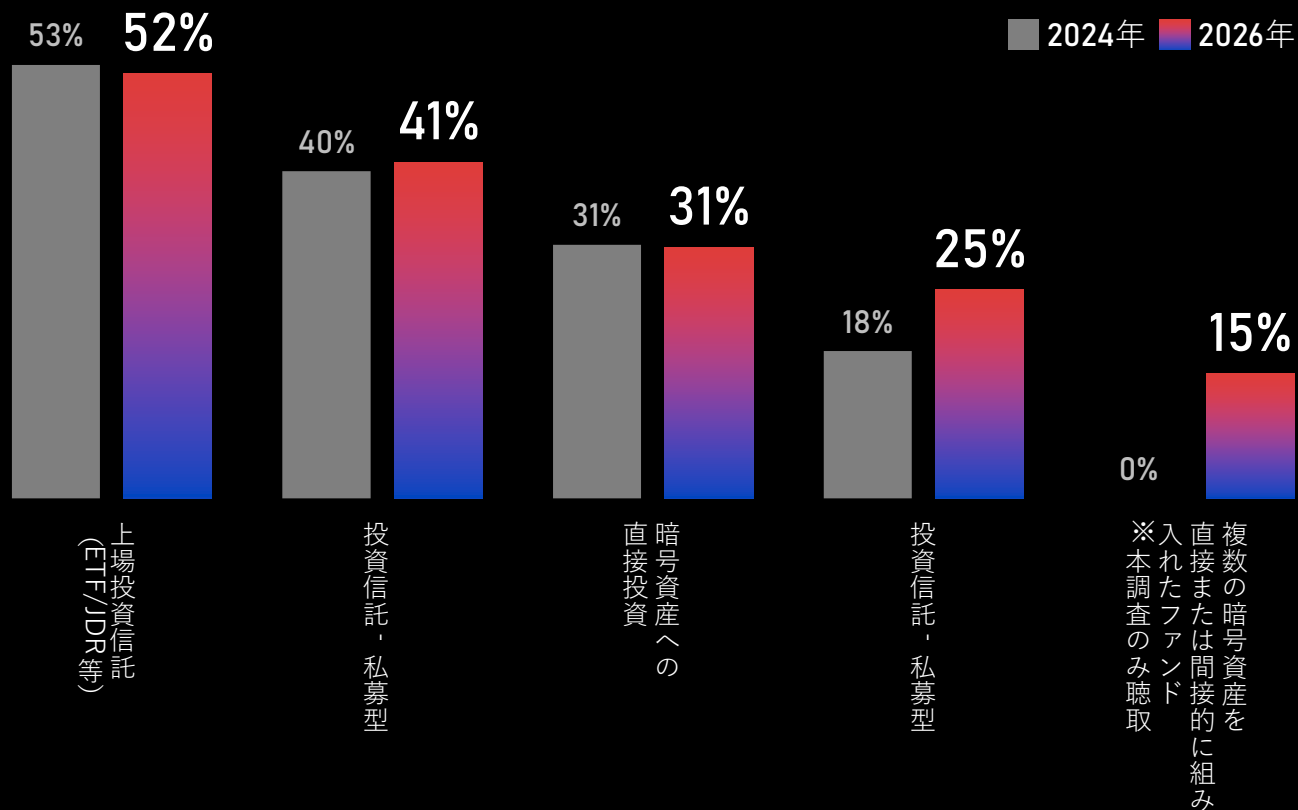
(複数選択・2024年/n=547・2026年/n=518)

引き続き上場投資信託（ETF/JDR等）が最多となっており、流動性や透明性の高い商品へのニーズが強い。

一方で、公募型・私募型を含む

ファンド形式への関心が高まっており、

特に私募型は前回調査から大きく伸長している。



1 : イントロダクション

2 : 暗号資産に対する投資動向・意向

3 : 暗号資産の投資加速のドライバー

a. 暗号資産投資の障壁

b. 暗号資産投資のニーズ

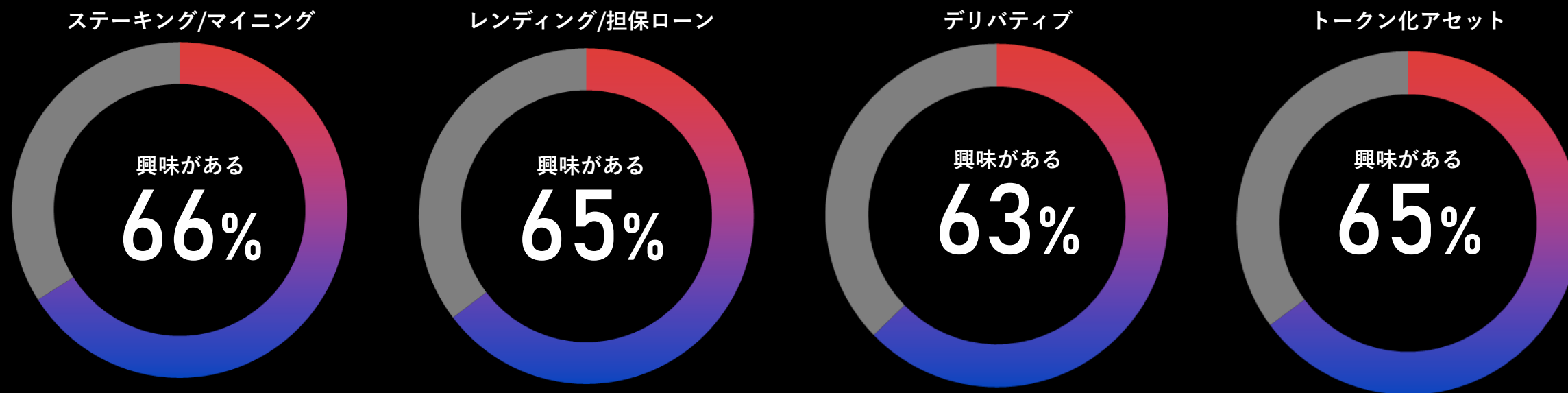
4 : その他デジタルアセット領域のニーズ

5 : 総括

Contents.

ステーキングやレンディングなどのインカム型投資に加え、 デリバティブ等の資産活用型商品にも6割超が関心を示す

投資/購入意向のある暗号資産商品 (n=518)

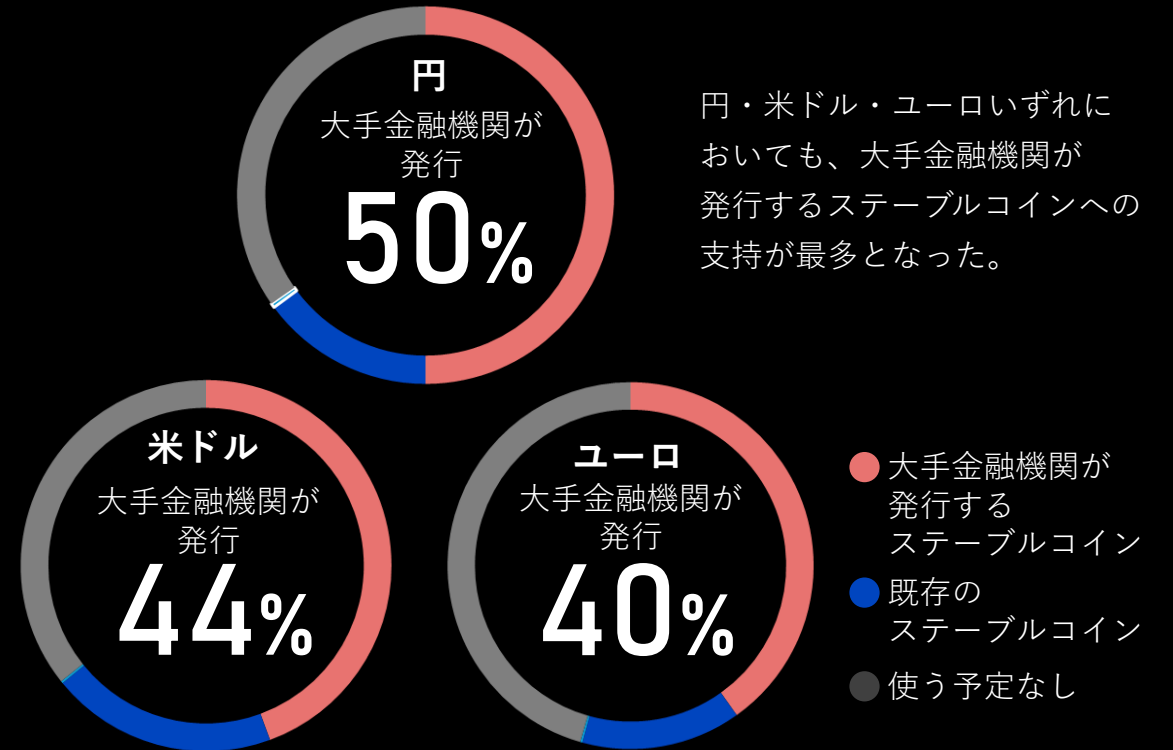
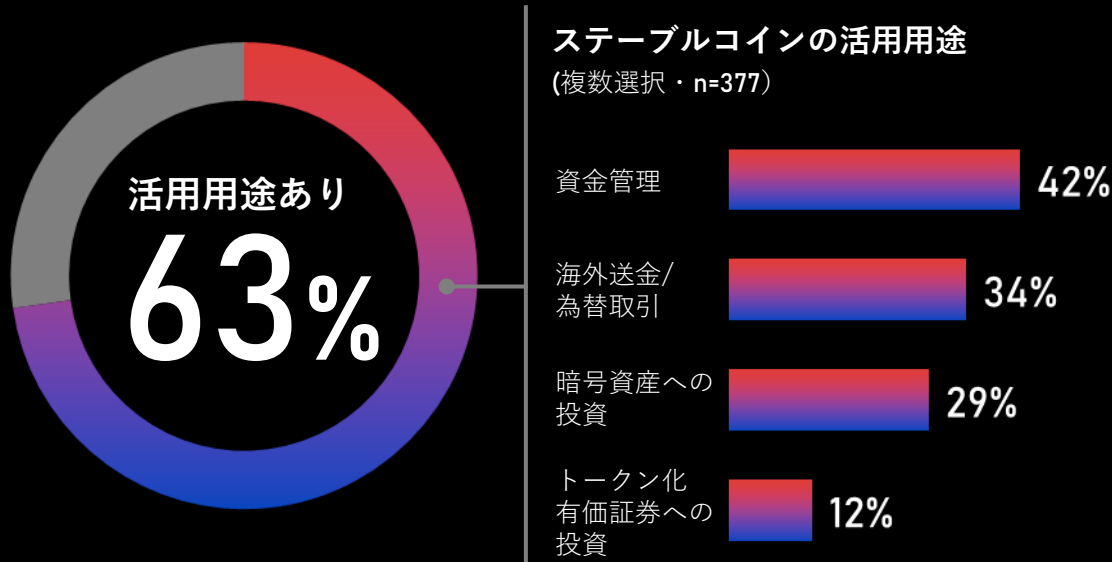


各商品とも6割超が「興味あり」と回答しており、
インカム獲得や資産活用を目的とした投資ニーズの広がりが確認できる。
キャピタルゲインに加え、暗号資産を活用して収益を得る多様な手法への関心が高まっていることがうかがえる。

ステーブルコインは実用面での活用ニーズが高く、 大手金融機関が発行するコインへの支持が高い

ステーブルコインの活用について (n=518)

使いたいステーブルコインについて (n=518)



1 : イントロダクション

2 : 暗号資産に対する投資動向・意向

3 : 暗号資産の投資加速のドライバー

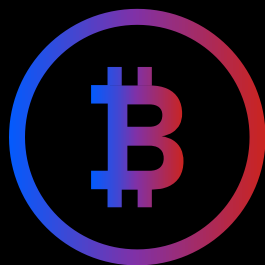
a. 暗号資産投資の障壁

b. 暗号資産投資のニーズ

4 : その他デジタルアセット領域のニーズ

5 : 総括

Contents.

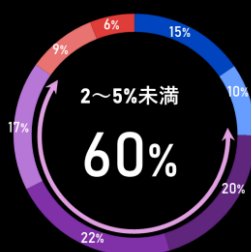
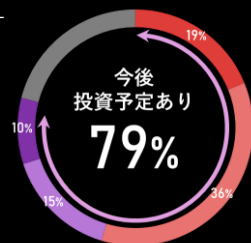


CONCLUSION

暗号資産を分散投資の機会として評価する割合が増加しており、
前回調査よりもポジティブな評価がなされている

暗号資産に対する印象は前回調査より改善し、Positive回答の増加やNegative回答の減少がみられるなど、認識面での好転が示された。また65%の回答者が暗号資産を分散投資の機会として捉えており、投資理由としても「分散投資機会の捕捉」や「他資産との低相関」が上位に挙げられている。

投資意向については「投資予定がある」と回答した人は79%であった。投資時期として「来年から」と回答する層も多く、直ちに投資を開始するというよりも、一定の準備期間が必要と考えられていることがうかがえる。また想定される投資配分比率として、2~5%未満と考える回答割合が60%を占めた。



ファンダメンタルズ分析の未確立やボラティリティ、法規制面への懸念は依然として障壁である。ただし、社内環境や情報整備は改善傾向にあり、現在の主要課題は意思決定層の知見不足や先入観に集約されつつある。制度の明確化と理解促進に加え、セキュリティの向上やリスク管理手法の確立といった具体的な論点への対応が、今後の投資検討や投資実行を後押しする上で重要となる。

投資手法に関する関心は、ETFや私募型ファンドへと広がり、ステーキングやレンディング等のインカム型商品にも6割超が関心を示すなど、多様化が進展している。さらに、ステーブルコインは実需用途での関心が高く、大手金融機関発行への支持が集中するなど、発行体の信頼性が重視される傾向がみられた。

本調査を通じ、投資対象としての印象改善・関心の高まりに加え、投資検討の加速にあたっての課題がより実務的な論点にシフトしていることが確認された。

Disclaimer

- 本資料は、お客様への情報提供を目的として、Laser Digital Japan株式会社（以下、LDJ）及び 野村ホールディングス株式会社（以下、野村）が作成した資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料に掲載された全ての意見や予想はLDJ及び野村の本資料作成時点での判断に基づいており、通知なく変更されることがあります。また、本資料における将来の予測に関する意見が実際に生ずるということを担保あるいは保証するものではありません。本資料の内容の一部は、LDJ及び 野村が信頼性があると判断した様々な入手可能な情報に基づいています。しかし、LDJ及び 野村はその正確さを保証するものではなく、これらの情報は要約された不完全なものである可能性があります。過去の投資実績は将来の結果を示唆するものではありません。
- 本資料は特定の証券取引に関する投資勧誘や投資アドバイスを目的としたものでもありません。
- 本資料は、配布されたお客様限りでご使用ください。本資料はLDJ及び 野村の著作物であり、LDJ及び野村の書面による事前の承諾なく、本資料の全部もしくは一部を複製、転送または再配布することはご遠慮ください。